

佐倉福音キリスト教会

サッサッ通信

2021年1月号(第73号)



牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

【ローマ人への手紙 8 章 28 節】

歴史に残る 2020 年が終わり、2021 年が始まりました。新しい年になり、心機一転頑張っていきたいと思いつつも、新型コロナウイルスの脅威が収まることもなく、いつまでこの状況が続くのかと漠然とした不安を覚えている方もおられるのではないのでしょうか。先が見えないというのは、本当に辛いことです。距離を知らされずに走るマラソンのようでペース配分に困ります。こんな状況だからこそ、一緒に聖書のことばから慰めと励ましを受け取りたいと思います。

今月の聖書のことばは、これまで多くのクリスチャンを慰め、励まして来ました。神学的な言葉では「摂理」ということが教えられています。摂理とは、神が造られたすべてのものを維持し、保護し、支配し、そ

して全ての出来事を、定められた結果へと導く働きのことを言います。ここには「神を愛する人たち」とあって、言い換えられて「神のご計画にしたがって召された人たち」とあります。これは簡単に言ってしまえば、クリスチャンのことを指します。クリスチャンとは、神を愛する人であり、神のご計画にしたがって召された、つまり、救われた人たちのことです。その人たちのためには、「すべてのことがともに働いて益となる」とあります。誤解されては困りますが、これはクリスチャンには良いことしか起こらないということではありません。クリスチャンであっても病気もしますし、ケガや事故にあうことがあります。新型コロナウイルスに感染することだって当然あります。受験に失敗したり、仕事が上手くい

かなかったりすることもあります。私たちが「嫌だ、避けたい、起こらないでほしい」と思うことも当然起こるのです。ただ、聖書は次のように教えます。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」これは私たちにとって慰めと希望を与えることばではないでしょうか。私たちに起こる全てのことが共に働いて益となるのです。私たち教会も新型コロナウイルスによって様々な制限を受け、思うように活動ができない状況が続いています。しかし、今起こっているすべてのことが共に働いて益となると信じることができます。また、個人の歩みにおいても、新型コロナウイルスだけでなく、様々なことが起こり、時にそれは私たちにとって不都合なことが起こることもあります。望んでいない結果になり、クリスチャンであっても「神様、なぜですか」と叫ぶような祈りをささげることもあります。しかし、いつまでもその結

～集会案内～

○日曜日：第一礼拝 9:00～ 第二礼拝 11:00～ ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
教会学校 10:10～10:40（現在は子どものみ） 19:30～21:00
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（休止中。子育てなどをしている方のための集い）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

果に固執することなく、「すべてのことがともに働いて益となる」ことを知っていることは、本当に幸いなことだと思わされます。

今の時代、先行きは不透明で、このままどうなってしまうのか不安を抱えておられるかもしれません。しかし、神を愛して歩むならば、神はそのような人たちに對して、すべてのことを共に働かせてくださり、益として下さいます。その恵みの生涯に誰もが招かれています。ぜひその招きに応じて頂きたいと心から願います。この一年が読者の皆様にとって、幸いなものとなりますようお祈り致します。

◆コラム

私にとって高校三年の体育祭で起こった事は今でも思い出すと悔しくなり、戻ってやり直したいと思う出来事の一つです。私は野球部に所属し、最後の夏に向けて練習に励み、主戦投手として期待されていました。しかし、体育祭で部活対抗リレーがあり、走る前にお祈りして臨んだのですが、結果は人生初の肉離れ。それから数週間は走ることもろくに出来ず、そんな選手が夏の大会で中心になれるわけもなく、最後に温情で投げさせてもらうだけでした。不完全燃焼で終わったことは大変残念なことで、今も寂しく思うこともあります。しかし、ケガがなければまた違った人生になり、牧師になっていたかどうか分かりません。別にケガを喜んでいるわけではありませんが、すべてを益としてくださる神様の御手の中を生きる幸いを覚えています。